『多 文 化 共 生』
事業報告書

【 ①企画／②企画 】

2024年7月5日（金）杉並区立大宮小学校【学びの交流授業 ～多文化共生～】

公益社団法人東京青年会議所杉並区委員会 地区事業

1. 事業実施背景

※本事業は3カ年計画の事業となり、今年度が1年目となります（2024年→2025年→2026年）

- 杉並区は、2023年の総合計画・実行計画改定で、新たに「多文化共生」を施策に掲げ、区内在住外国人の支援を充実・発展させていくことを明記するなど、多文化共生社会の推進に向けた取り組む方針を出した。
- それは、少子高齢化に伴う人口減少社会において在住外国人が増加している状況で、互いの文化的違いを認め合いながらも地域社会の一員として共に生きていき、社会を創っていくためである。

【問題点】

- 外国人を取り巻く問題として「日本語能力の不足による問題」「ゴミ出しルール等地域の決まりに関するもの」「外国人が日本人と知り合う場の不足」等が挙げられている。杉並区でも、在住外国人数が2023年10月末現在19,058人と、この十数年で50%以上増加しており、同様なことがいえる。
- 多文化共生社会の実現には、日本人が国籍・民族・宗教等の違いによる多様性を、寛容さを持って受け入れる共生意識が必要である。
- しかし、国内での外国人の存在や貢献に対する認識が不足している。
- 異なる文化の理解や認識の向上には、日本人と外国人が実際に触れ合い交流することが有効だが、こうした機会が少ない状況である。

【問題点】

【原因として】

- 異なる文化の理解や認識が不足している要因は、交流する機会はあっても限定的であったり、交流の場があること自体を知らない人がいることである。また、大人だけでなく子供の環境においてもそういった機会が少ないことは問題とされており、その要因の一つとして多文化共生に関するプログラムが杉並区として定められていないことがあげられる。
- 杉並区教育委員会では、令和5年度より学習指導要領として多文化共生に関する項目を追加しているが、取り組み内容は各学校に委ねられており、杉並区としてプログラムが定められていないことが考えられる。

2. 事業実施目的と現状の課題

目的：

- 異なる文化を持つ人々への理解を深め、外国人を地域に受け入れるための多文化共生に関する意識が醸成された人材を、継続的に社会に輩出する仕組みを作る。

課題：

- 杉並区は、多文化共生を認知・理解する機会が少なく、平等に学ぶ環境が整備されていない。

3. 事業概要、連携団体（一部）

【準備フェーズ】

①企画：多文化交流授業の「教材」を作成

2024年　7月1日（月）～ 7月4日（木）

【開催／実行フェーズ】

≪開催場所：杉並区立大宮小学校≫

②企画：学びの交流授業　～多文化共生～

2024年　7月5日（金）　8:00～11:20（授業時間　8:30～11:10）

③企画：学びの交流体験　～多文化共生～

2024年 7月27日（土）　9:00～17:00（開催時間　11:00～16:00）

【拡散／次年度フェーズ】

④企画：HP形式のデジタルプラットフォームを作成

2024年　7月1日（月）～ 7月31日（水）

⑤企画：実行委員会の形成

2024年 7月22日（月）　9:00～17:00

産【民間企業】

≪東京フットボールクラブ株式会社（FC東京）≫

［学び×祭り］ブース出展、コンテンツ作成（ポルトガル語 学び動画、ミニドリル）

官【行政】

≪杉並区（後援）≫

事業内容への助言、PR

≪杉並区教育委員会（済美教育センター）≫

開催校の選定協力、教材の作成協力

学【教育機関】

≪杉並区立大宮小学校≫

学校授業（多文化共生）、［学び×祭り］の開催協力、教材の作成協力

≪エベレストインターナショナルスクール≫

［学び×祭り］多文化交流体験での協力

民【地域住民、NPO】

≪アクラス日本語教育研究所　代表理事 嶋田 和子氏≫

授業講師、教材作成、［学び×祭り］事業内容への助言

≪一般社団法人 杉並区交流協会≫

講師紹介、教材の作成協力、［学び×祭り］ブース出展協力、人員の派遣協力

≪NPO法人 CORE EDUCATION≫　［名称変更申請中　旧OS-Labo (略称)］

コンテンツ作成協力（授業動画、資料・報告書、プラットフォーム）、実行委員会 形成協力

①企画：多文化交流授業の「教材」を作成

（狙い）

教材を作成することで、本事業の②企画で使用するだけでなく今後も継続的に使用できるコンテンツとして活用していく

（内容）

本事業の協力団体や教育委員会に協力してもらい、お互いの文化や気持ちへの寄り添い方を考えていく「多文化共生」を題材とした教材を作成した。外国語版も作成することで、外国人も継続的に活用できるコンテンツとしていく

教材作成：アクラス日本語教育研究所　代表理事 嶋田 和子氏

作成協力：大宮小学校（校長先生・副校長先生）、杉並区教育委員会、杉並区交流協会

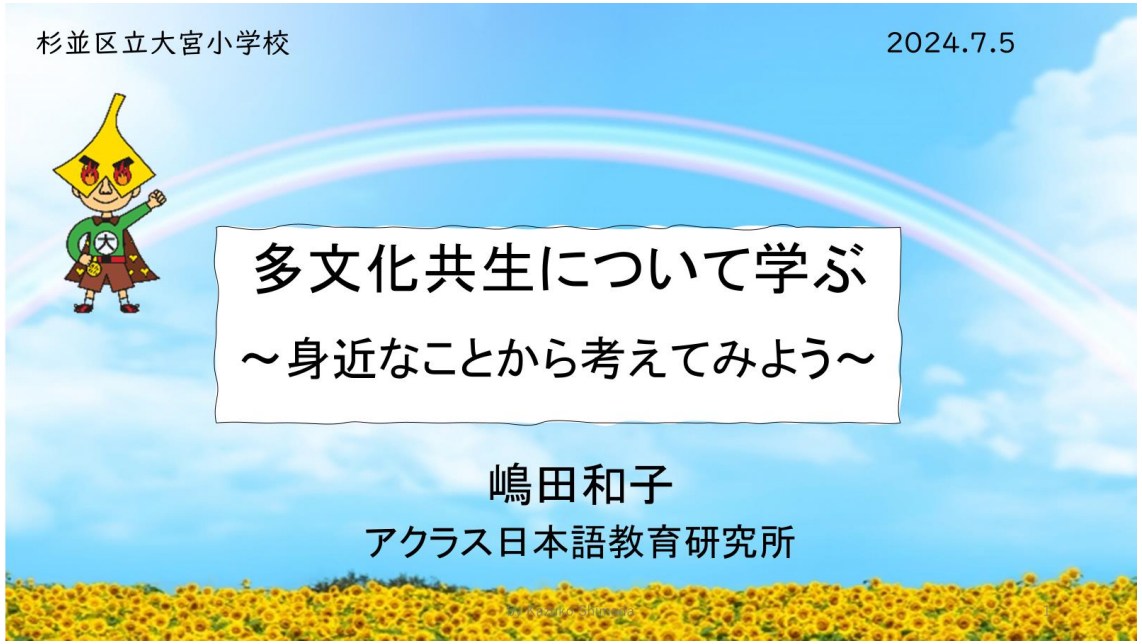
動画編集：NPO法人 CORE EDUCATION

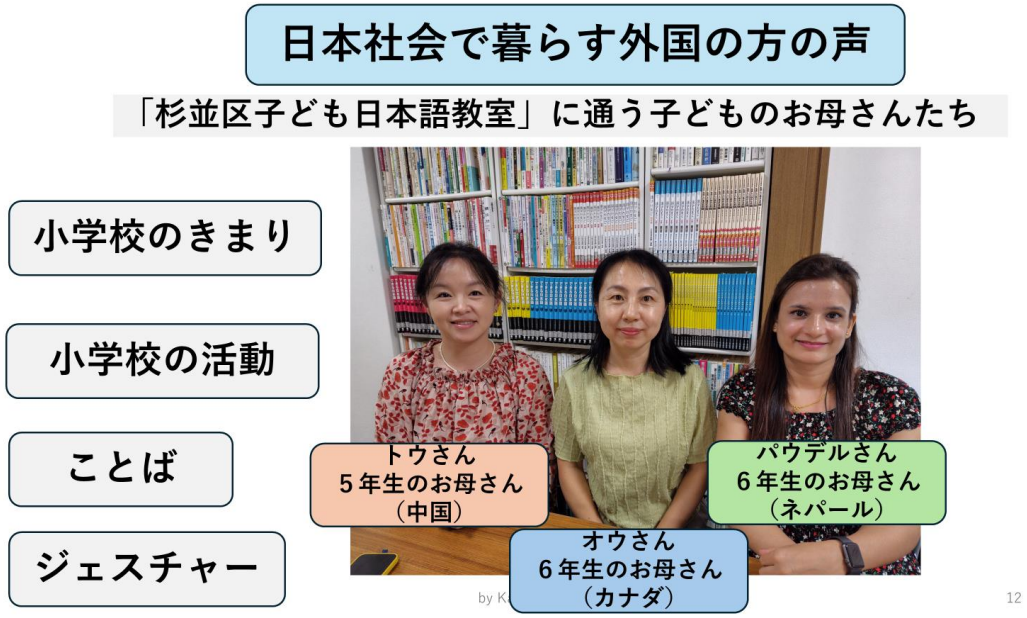
（作成）

・多文化共生を長年推進してきた講師を中心に、様々な視点からの意見を取り入れながら作成した

・具体的には校長先生、教育委員会、交流協会に意見を伺いながら、担当者と講師で協議を重ねた上で原案が完成
その後、副校長先生や「日本語教室に通う外国籍保護者」の意見を伺い、最終調整を行なって作成に至った

①企画：多文化交流授業の「教材」を作成





（評価）

データを活用して実状を伝える側面もありながら、「子供を日本の小学校に通わせている外国籍保護者」の動画なども取り入れることでリアリティある意見も聞くことができ、なおかつ「問いかけ」を多くしたことで一方向的ではなく双方向的なコミュニケーションを実現できる教材となった。関係各所からも好評であった。

また、英語版や「②企画の学校授業」を動画教材として作成することで、継続的に保護者や他の学校など様々な方に学んでもらえる機会を提供可能となり、講師からもご評価いただいた。

②企画：学びの交流授業 ～多文化共生～

（狙い）

AI翻訳ツールを実際に活用しながら「多文化共生」を題材にした授業や交流を行うことで、言語の壁を越えた交流を双方の児童に体験してもらう

（内容）

大宮小学校の児童（5・6年生）に、①企画で作成した教材を使用して授業を行なった

授業講師：アクラス日本語教育研究所　代表理事 嶋田 和子氏

授業協力：大宮小学校、杉並区教育委員会、杉並区交流協会（杉並区日本語教室 保護者）

撮影協力：NPO法人 CORE EDUCATION

→ エベレストインターナショナルスクールが急遽来れなくなった事情により、交流は③企画で行うことになった

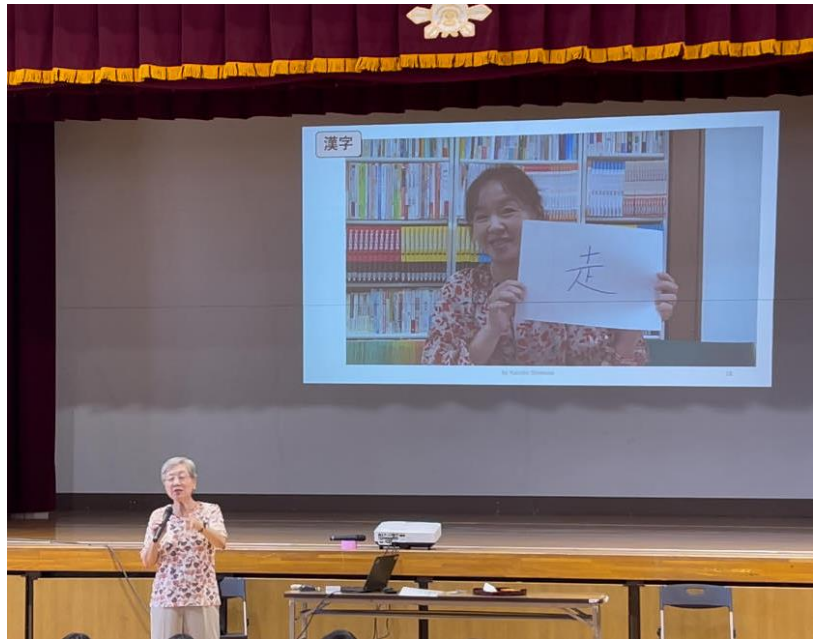
（改善点）

・「背景・課題・目的」の抽出に時間がかかってしまい、企画に取り掛かる時期が遅くなったことが要因として考えられる

・ 同時進行で企画を行い、開催日程を早めに確定させていくことで、問題が発生しないように取り組んでいくことが重要

・ 来年度は実行委員会を立ち上げ、外部団体のさらなる協力も得ながら、早い段階で企画に取り組んでいくことで改善予定

②企画：学びの交流授業 ～多文化共生～



（評価）

データを活用して、クイズ形式で実状を伝えることで児童にテーマへの興味を抱かせ、「やさしいせかい」のミュージックビデオを活用して「ハサミの法則」や「心の法則」など多文化共生の重要性を理解してもらった。

また「外国籍保護者」の動画によって文化の違いを伝えることで、児童たちが様々な考え方に触れることができ、「問い」を立てて意見を募ることで双方向的なコミュニケーションを取りながら、児童が楽しんで学んでいる様子を見ることができた。学校側からも非常に好評な意見をいただくことができた。

【５－２　児童用 記述式アンケート】※一部抜粋

多文化共生の授業で学んだ内容について、意見があれば教えてください

・世界っていうのは広いけれど、身近だということを実感した

・多文化共生とは、僕たちとは違う国で生まれたを人差別せず、協力していい社会を作ろうとしたプロジェクトだと思う

・多文化共生やハサミの法則などを学んだ。嶋田先生がハサミの法則を意識していると感じた

・まず、日本に約３５０万人ほど外国人がいることや、年々人数が増えていることに驚いた。「やさしい　せかい」という歌も、言葉や人種の壁を乗り越えて共生しようという思いが伝わってきて面白かった

・国がちがくてもみんながおなじ心を持っていることがいいなと思った

・多文化共生についてある程度は知っていたけれど、外国の人と共に生活するためにはとても大切なものなのだと分かった

・『多文化共生』という言葉を聞いたときはわからなかったけど、顔が違うけど宇宙からみたら地球人でみんな同じということが分かった

・ 多文化共生は、お互いの言葉や文化を認め合いそれを理解することだと思った。なので外国人の人がいてもこわからず仲良く接することが大切だと思った

・いろいろなことが分かって杉並の人口や外国の人の人口なども詳しくわかった

・多文化共生は日本や自分のためにもすごく大事なものだと思った。前に英語をやっていてその先生がいろいろな国の人だったが、その先生たちはすべて英語で話していた。自分の国じゃない言葉をしゃべれる、教えられる人はすごくかっこいいと思う

・多文化共生は、違う国の文化などを自分たちも知ったりすることだとわかった

・自分はちがう国の人々がたくさん日本に来ていて、文化も言語もちがうけれど、同じ立場であることを意識し、共に生活していくことが多文化共生なのだと思った

・国が違うなどという理由で区別してはいけないと思った

・多文化共生は私にとって「多くの文化を共に理解しあって生きる」ということだと思った

≪質問≫

・他の国の人々が困っていることなどは他にありますか？

外国の人が困っていることについて

≪学校関係≫

・日本の学校制度（高校入試があること）などが分からない

・イスラム教徒なので、給食のときに食べられないものがある

≪生活関係≫

・病院に行きたくても、日本語で説明ができない

・ゴミの捨て方が分からない（国では、全部一緒にして捨てていた）

・近所の人と、どのように付きあったらいいか分からない

【５－２　児童用 記述式アンケート】※一部抜粋

多文化共生の授業で学んだ内容について、質問を教えてください

≪質問≫

・杉並区にはベトナム人が多いからベトナムの文化も教えてほしいです。

今回は、４５分しか時間がなかったので、中国とネパールに絞りました。いろいろな本が出ていますので、ぜひご自分で調べてみてください。そして、交流協会のイベントなどに行くと、いろいろな国の人達と出会うことができ、楽しい時間が過ごせると思います。

・なぜそのような国が日本に多いのですか？

≪データのような国・地域がどうして多いのか、どうして増えているのか≫

日本と外国とのこれまでの歴史も関係しています。５年生の方からの質問もありますが、『新しい社会６ 政治・国際編』を見ると、いろいろなことがわかります。

例えば、「日本とつながりの深い国について 日本に住んでいる人に聞いて調べよう」というページを見ると、韓国出身の人々が多い理由がわかります（９４ページ）。

その他、その国の経済的なこと、日本との関係などいろいろな理由があります。

１位 中国	２位 ベトナム	３位 韓国	４位 フィリピン	５位 ブラジル
６位 ネパール	７位 インドネシア	８位 ミャンマー	９位 台湾	10位 アメリカ

また、時代によってこの順位が違いますし、地域によっても違います。

・多文化共生とは多様性と同じですか？

とても良い質問ですね。 総務省では、多文化共生を次のように説明しています。

『国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、
対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと』

説明を加えると「日本人であっても、外国人であっても、異文化を理解しようと努め、一人 ひとりの違いを認め合い、お互いに協力し合って豊かな地域社会にしていこう」という考えかた のことを言います。

多様性とは、ある社会の中に異なる特徴や特性を持つ人々がともに存在することを言います。その多様性を認め合って、多文化共生に向かうことになります。

多様性は、ダイバーシティとも言います。

・中国だけじゃなくてもジェスチャーの種類はほかにあるんですか？

文化が違うと、言葉が違うように、ジェスチャーも違います。今回は、オウさんに中国と日本のジェスチャーの違いについて話してもらいました。たくさん違いがありますので、ぜひご自分で調べてみてください。ちょっとクイズを出します。

＊「賛成・はい」というときに、首を横に振る文化はどこ？

＊ 日本では、手のひらを下にして「こっちにおいで」と手招きしますが、
それは、「あっちに行け」という意味にとられます。それはどこの国？

②企画：学びの交流授業 ～多文化共生～（検証Ⅰ）

（検証Ⅰ）

「多文化共生の授業で学んだ内容について、意見・質問があれば教えてください」といった内容のアンケートを、授業後に答えてもらった（後日、講師が質問に対して回答を行なった）

（結果）

・「多文化共生への興味」や「重要性を理解した」といった、多文化共生に対しての関心を示す意見
・「様々な文化や国の人がいるが、宇宙人からしたら「みんな同じ地球人」という話が心に残った」といった様々な考え方に触れて学べたという意見
・「ハサミの法則を活用する」や「理解を示して、思いやりを持って接していきたい」といった、行動に移すことを示す意見
・「他の国の人が困っていることは、他にもあるのか」や「多文化共生と多様性の違い」などの鋭い質問

（結論）

・上記のような様々な視点からの意見や質問が多く出たことから、今回の授業を通じて児童たちが「多文化共生」についての学びをしっかりと得ることができたと考えられる。また、講師からの回答をクラス別に作成することで、自分のした質問に対して、さらなる興味を抱いてもらうことができる。さらに、③企画でこうした「意見・質問・回答」を活用することで、保護者や参加者に授業の内容を周知することができ、「多文化共生」の学びを推進していくことに繋がっていく。

【大宮小学校】 小学５,６年生ミニテスト　≪ 2024/7/5 多文化共生授業　→　7/18 ミニテスト実施 ≫

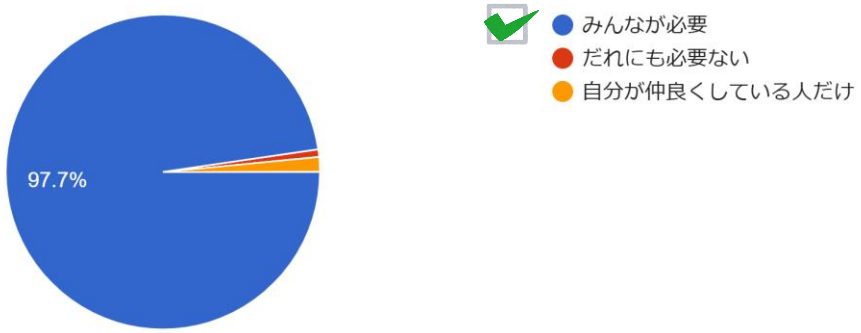
「多文化共生」とはどういった意味でしょうか？

130 件の回答

89.2%

多文化共生の考え方が必要な人はだれでしょうか？

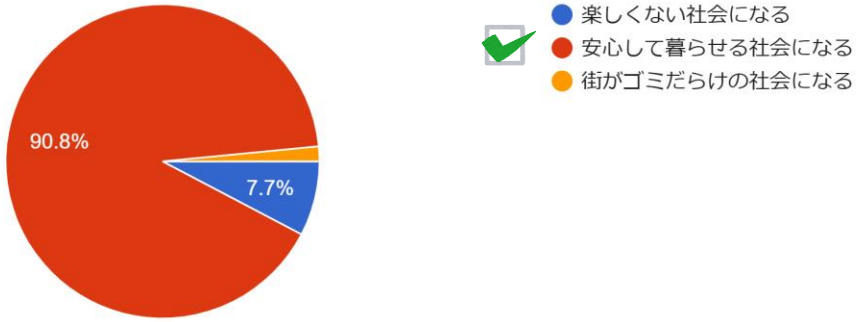
130 件の回答



97.7%

相手や社会のことを考えて行動すると、どんな社会になるでしょうか？

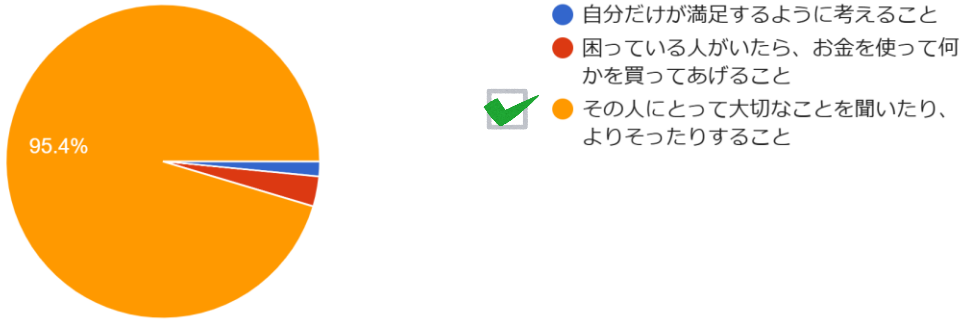
130 件の回答



90.8%

多文化共生を考えるときに大切なことはなんでしょうか？

130 件の回答



95.4%

【7/18　児童用 記述式アンケート】※一部抜粋

あなたが海外の学校に転校したことをイメージして
転校したクラスの子たちに「どのようによりそってもらえたら」うれしいですか？

・色々な事を一緒に手伝ってくれたり、教えたりしてもらえたらうれしい

・「大丈夫？何か困ったことはない？」と心配してくれたらうれしい

・まず優しくしてくれて、わからないところがあったら教えてもらえるとうれしい

・どこに何があるか、どの様に授業などを行うか、などを教えてもらえると嬉しい

・積極的に話しかけてもらえたらうれしい

・困っていた時、気にかけてもらえたらうれしい

・最初からその教室にいたように、仲良く寄り添ってもらえたらうれしい

・みんなが優しかったり、気持ちを分かってくれたり、英語が分からなくてもわかるように
ジェスチャーや絵で説明してくれたらうれしい

・僕は、元々アメリカにいたので「海外の学校に転校したこと」ではなく、アメリカにいた時を
イメージすると、学校に入った時にほとんどの人が優しく接してくれたのがうれしかった

・国や人種が違うからといって差別したりせずに、個性を認めて仲間に入れてほしい

・日本の文化を受け入れてもらえたらうれしい

・みんなから、色々なその国のことを教えてくれること

・ゆっくりしゃべってもらって、お互い分かり合えるようにしてほしい

・英語でもいいから何か話しかけてほしい。困ったときにそばにいて教えてほしい

・優しく英語で喋ってくれると嬉しい

・分からない事がいっぱいあるだろうから、色々な事を教えてもらいたい

・みんなの考えを共有すること

・違う国の言語などを優しく教えてくれたらありがたい

・自分のほうの文化も知ってほしい

・教室の場所を教えてくれたり「ここはこうするんだよ」みたいな寄り添い

・英語であまり話せなくても一緒に英語の練習などをしてくれる

・英語を教えてもらったり、ジェスチャーで海外の人にも伝わる寄り添い方をしてほしい

・その場所のルールやマナーを教えてもらって、平等に参加させてほしい

・言葉の壁を乗り越えて、ジェスチャーやスポーツを一緒にして仲良くできたらうれしい

②企画：学びの交流授業 ～多文化共生～（検証2）

（検証2）

① 「多文化共生ミニテスト」

② アンケート『海外学校への転校をイメージし、クラスの子に「どのようによりそってもらえたら」うれしいか』

（結果）

① 「多文化共生ミニテスト」は平均正答率が90%を超える結果となった

② アンケートは「やさしくよりそってほしい」といった意見や、「自分の文化を理解して、言葉やルールを教えてほしい」などの意見を多く見ることができた

（結論）

① 授業から10日以上過ぎても高い正答率を得られたことから、授業を通じてしっかりと学ぶことができたと考えられる

② このアンケートを通じて、児童たちに双方の立場から「多文化共生」を考えてもらうことができた